

労働組合の原桌が向われた 81春闘

日新 労働新聞

動労千葉

81.4.30 No. 729

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五六(公衆)四三三二七二〇七



春闘総括と組織強化拡大方針で意志一致

 動労千葉は、四月二十八日十三時より、第十一回支部代表者会議を動力車会館において開催した。会議は、ストなし―低額おさえ込みの中で終息した八一春闘中間総括の視点を確認するとともに、当面する闘い、とりわけ組織強化・拡大に向けた具体的方針について討議決定した。労働運動の原点が鋭く問われた闘いであった。

真の春闘決戦はこれから始まる
 ラクであった。

着実に広がる三月闘争の胎動

支部代は、関川委員長長の挨拶に続いて、布施副委員長より八一春闘四月決戦段階の経過と八一春闘中間総括の視点、さらに当面する組織強化・拡大の取り組みが一括して提起された。

八一春闘中間総括の視点

第一に、政府・資本の基本戦略に組み込まれた闘いであったということ。八三年改憲―軍事大国化に向けて労働運動圧殺―産報化の一環としてのストなし策動・春闘解体―総評労働運動解体攻撃に対し、政治・反合闘争を放棄したばかりか、同盟主導の賃金闘争として許容する中に明らかである。マスコミですら「春闘はもう「春答」になった」というように、賃金抑制を有弁に物語っている。

物価上昇にも満たない低額回答が一応示されたが、われわれの真の春闘決戦はこれから始まるのである。仲裁裁定実施問題・国鉄再建合理化・公務員二法など様々な官公労働者への攻撃が強まることは必至である。

ストなしを前提に率先協力する
 「本部」反動分子!

第二に、八一春闘を通して、「本部」反動分子の路線的・運動的破産がより鮮明となってきたこと。今日動労「本部」革マル分子は、「国労共闘」を大きく評価しているが、国労中央の労使協調路線への埋没、完全屈服の中で完全「共闘」が合理化の水先案内人としてますます屈服・協力の路線をつきすすむものであるといえよう。

また三信ビルと裏切り分子・土屋幹など一握りの「本部」派の八一春闘なるものが、ネトライキとして、当局の手厚いひ護の下で佐倉一総決起集会「など無惨なすがたを自己暴露している。」
 スト前日、成田へ乗り入れた「本部」組合員に「何も指示されていない」ばかりか、当局が、佐倉へ電話して、指示をおおぐという全くのテイタ

このような労働運動の現状、とりわけ「本部」反動分子の実態に抗し、動労内外における、職場・生産点での活性化など、わが動労千葉の三月ジェット決戦闘争は、労働運動の内部からの胎動として大きく波及し、政府・自民党の改憲・軍事大国化と対決する労働運動の創造の基本路線と対決する闘い路線・組織づくりが日々拡大していることも事実である。

決定された当面する取り組み

- 一 仙台・盛岡からの帰任者(五十三年予科)獲得の取り組み。
- 二 三役オルグの実施。
- 三 全国オルグ団の派遣。
- 四 富里村議選・東京都議選の取り組み。

5.1 各地区メーデーを成功させよう。

労働者は一斉に起て!!

五月一日



千葉県中央メーデー
 9時半、千葉公園
 集合=千葉運転区前、9時

日本の労働メーデー(一九二〇年)以降、労働者は流血・逮捕の弾圧をかって、メーデーを闘いこぎてきた。右は、治安維持法(一九三五年制定)撤廃を掲げた一九二六年労働メーデーポスター